

(1) 基本情報に関するアンケート結果

1-1. 性別を選択してください。

【選択肢】 男性, 女性

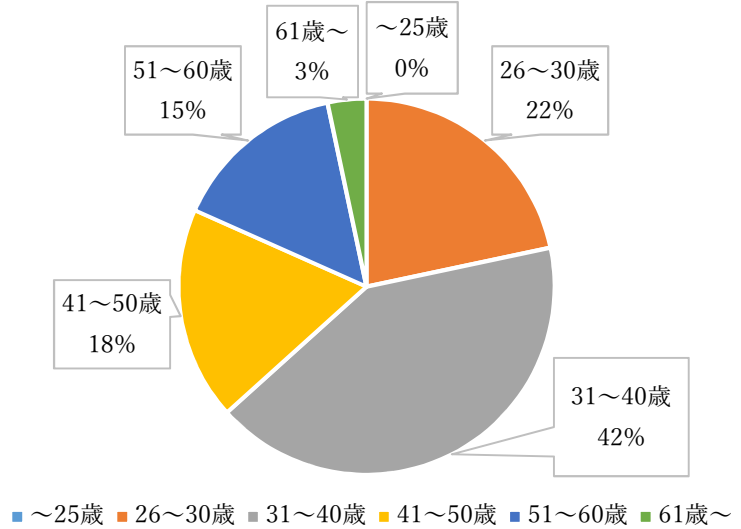
1-2. 年齢を選択してください。

【選択肢】 ~25歳, 26~30歳, 31~40歳, 41~50歳, 51~60歳, 61歳~

表 1. 回答者の性別及び年齢構成

年齢	男性	女性	合計
~25歳	0	0	0
26~30歳	5	8	13
31~40歳	11	14	25
41~50歳	7	4	11
51~60歳	6	3	9
61歳~	1	1	2
合計	30	30	60

年齢構成 (全体)



1-3. 持っている教員免許状を全て選択してください(複数選択可)。二種免許・一種免許・専修免許等の種別の違いは問いません。一覧にない免許を有されている場合は、「その他」も選択し、持っている免許状の校種・教科を記述してください。

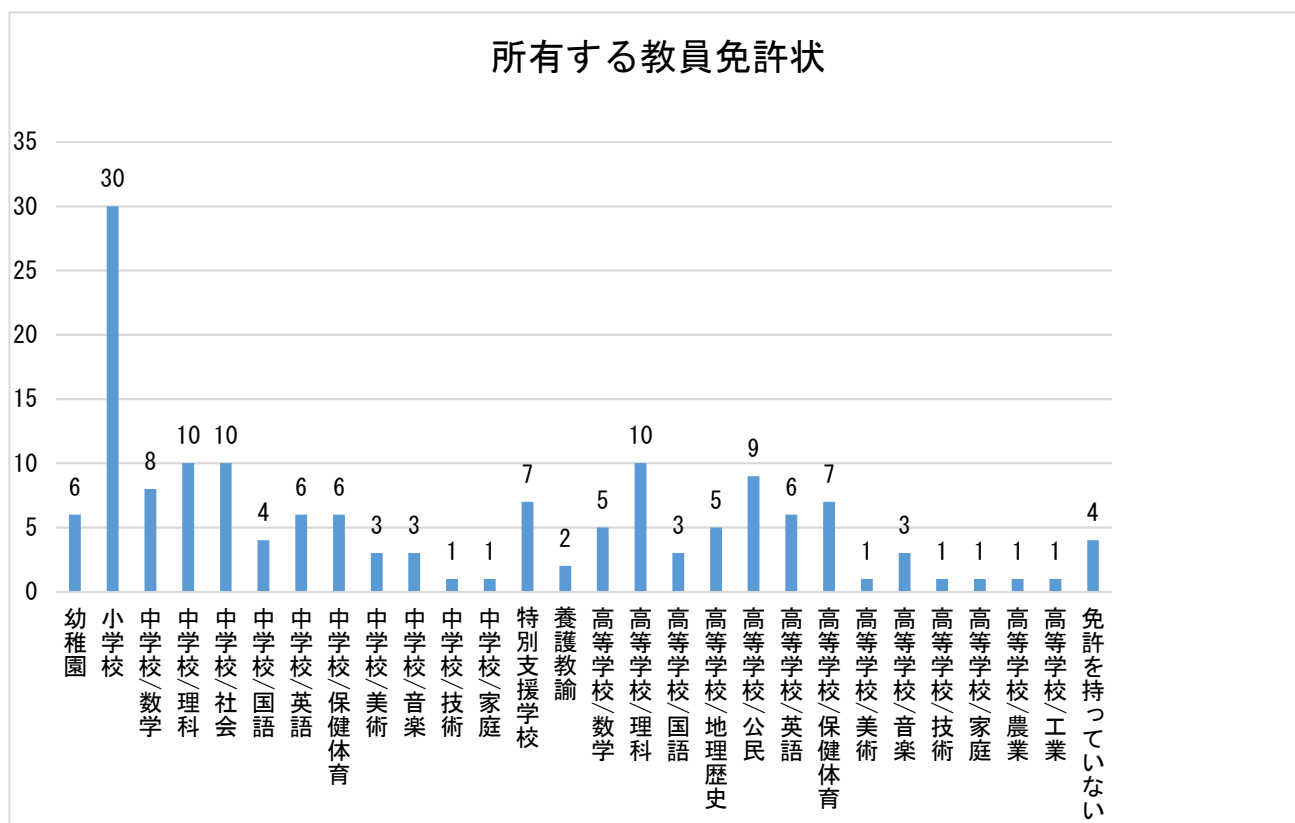
【選択肢】幼稚園, 小学校, 中学校(数学/理科/社会/国語/英語/保健体育/美術/音楽/技術/家庭), 高等学校(数学/理科/地理歴史/公民/国語/英語/保健体育/美術/音楽/技術/家庭), 特別支援学校, 養護教諭, 免許を持っていない, その他

表 2 所有する教員免許状

免許状の種類	人数	免許状の種類	人数	免許状の種類	人数	免許状の種類	人数
幼稚園	6	中学校/保健体育	6	高等学校/数学	5	高等学校/美術	1
小学校	30	中学校/美術	3	高等学校/理科	10	高等学校/音楽	3
中学校/数学	8	中学校/音楽	3	高等学校/国語	3	高等学校/技術	1
中学校/理科	10	中学校/技術	1	高等学校/地理歴史	5	高等学校/家庭	1
中学校/社会	10	中学校/家庭	1	高等学校/公民	9	高等学校/農業	1
中学校/国語	4	特別支援学校	7	高等学校/英語	6	高等学校/工業	1
中学校/英語	6	養護教諭	2	高等学校/保健体育	7	免許を持っていない	4

※複数の教員免許状を所有する回答者も多く、表中の所有者数は延べ人数である

所有する教員免許状



●50%が小学校の教員免許状を有しており、また、約93%の回答者が、いずれかの教員免許状を有して、海外での教育活動に参加している。

2-1. 海外で教育活動を行った国名を全て記入してください。

表3 海外で教育活動を行った国・地域

国名	人数	国名	人数	国名	人数
アルゼンチン	1	スリランカ	1	ボリビア	5
インド	1	セネガル	2	ホンジュラス	5
インドネシア	2	タイ	1	マラウイ	1
ウガンダ	1	タンザニア	2	マレーシア	2
エクアドル	3	ドミニカ共和国	1	南アフリカ共和国	3
エチオピア	3	トンガ	1	南スーダン	1
エルサルバドル	1	ニカラグア	1	モザンビーク	2
ガーナ	3	ニュージーランド	1	モルディブ	1
カナダ	1	ネパール	1	モロッコ	3
カンボジア	1	パキスタン	1	モンゴル	1
ケニア	3	パプアニューギニア	1	ラオス	4
サモア	1	フィリピン	5	香港	1
ザンビア	1	ブルキナファソ	5	台湾	1
ジャマイカ	2	ベリーズ	2		

※複数回に渡り、海外での教育活動を行なった回答者もいるため、表中の人数は延べ人数である

●回答者が教育活動を行った国・地域の多くが発展途上国であった。

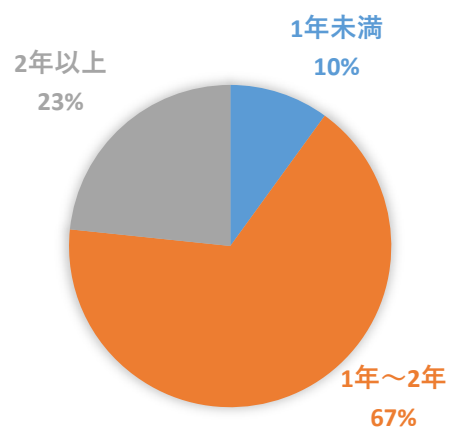
2-2. 海外で教育活動を行った期間の合計を記入してください。(例：1年2ヶ月3週間)

表4 海外で教育活動を行った期間

期間	人数(人)
1年未満	6
1年～2年	40
2年以上	14

※複数回に渡り、海外での教育活動を行なった回答者もいるため、表中の期間は、教育活動を行なった延べ期間である。

海外で教育活動を行った期間



●回答者の多くが1年以上にわたって、海外での教育活動を経験している。

3. 海外での教育活動を行った目的について、以下の選択肢のいずれかを選択してください。また、「その他」の場合は、どのような目的であったかを記述してください。

【選択肢】青年海外協力隊としての教育活動、シニアボランティアとしての教育活動、教育・研究を目的とした研究活動、その他

表5 海外で行った教育活動の目的

目的	人数（人）
青年海外協力隊としての教育活動	53
シニアボランティアとしての教育活動	5
教育・研究を目的とした研究活動	6
ワーキングホリデー	1
日系社会青年ボランティア	1
NPOのスタディツアー	1
NGOを通じてのボランティア活動	1
日本人学校教諭と校長	1
教員として海外引率を担当	1

※複数回に渡り、海外での教育活動を行なった回答者もいるため、表中の人数は延べ人数である。

●多くの回答者が、青年海外協力隊あるいはシニアボランティアというJICAのプロジェクトとしての教育活動を行っていた。

4-1. 海外で行った教育活動の校種や教科について、行った校種や教科を全て選択してください（複数選択可）。なお、「その他」の場合は、教育活動を行った校種や教科を記述してください。

【選択肢】就学前教育レベル，初等レベル(算数/理科/社会/英語/保健体育/美術/音楽/家庭)，中等レベル(数学/理科/社会/英語/保健体育/美術/音楽/技術/家庭)，各種特別支援学校レベル，専門学校レベル，教員養成校レベル，大学レベル，その他

※複数回に渡り、海外での教育活動を行なった回答者や複数の校種における教育活動を行なった回答者もいるため、表中の人数は延べ人数である。

表 6-1 海外で教育活動を行った校種・教科

校種・教科	人数	校種・教科	人数
就学前教育レベル	7	中等レベル (中学/保健体育または高校/保健体育)	3
初等レベル(小学校/算数)	22	中等レベル(中学/美術または高校/美術)	2
初等レベル(小学校/理科)	8	中等レベル(中学/音楽または高校/音楽)	2
初等レベル(小学校/社会)	1	中等レベル(中学/技術または高校/技術)	1
初等レベル(小学校/英語)	2	中等レベル(中学/家庭または高校/家庭)	1
初等レベル(小学校/保健体育)	7	中等レベル(高校/農業)	1
初等レベル(小学校/美術)	9	中等レベル(日本語教育・日本文化)	1
初等レベル(小学校/音楽)	7	中等レベル(環境教育)	1
初等レベル(環境教育)	2	中等レベル(研究会)	1
初等レベル(衛生教育)	1	各種特別支援学校レベル	2
初等レベル(日本語教育・日本文化)	1	高等専門学校レベル(機械)	1
初等レベル(保護者対象)	1	専門学校レベル	3
初等レベル(研究会)	1	大学レベル	8
中等レベル(中学/数学または高校/数学)	7	大学院レベル	1
中等レベル(中学/理科または高校/理科)	6	教員養成校レベル	9
中等レベル(中学/社会または高校/社会)	1	教育省レベル	1
中等レベル(中学/英語または高校/英語)	1		

表 6-2 海外で教育活動を行った校種・教科（校種別）

校種	人数（人）
就学前教育レベル	7
初等レベル(小学校)	62
中等レベル(中学校・高等学校)	28
各種特別支援学校レベル	2
高等教育レベル (高等専門・専門学校・大学・大学院・教員養成校)	22
教育省レベル	1

●海外で教育活動を行う場合、初等レベルを対象とした教育活動が、多くの割合を占めている。

●教科別に見た場合、初等レベルでは算数科，中等レベルでは数学科や理科といった，理数系の教科に関する教育活動を行った回答者が多い。

4-2. 海外で行った教育活動の内容について、行った内容を全て選択してください（複数選択可）。
 なお、「その他」の場合は、教育活動の内容を記述してください。

【選択肢】授業実践，指導補助，子供のための教材・教具の作成(補助も含む)，教師のための指導資料教材の作成(補助も含む)，授業に対する助言，ワークショップ等の開催，授業研究の実施，その他

表7 海外で行った教育活動の内容

内容	人数	内容	人数
授業実践	51	日本文化のイベント実施・保護者との料理教室や手芸教室など	1
指導補助	42	生徒会活動	1
子どものための教材・教具の作成(補助も含む)	43	臨床現場でのOJT	1
教師のための教材・教具の作成(補助も含む)	45	発表会の審査・助言	1
授業に対する指導助言	34	調査研究	1
ワークショップ	43	授業の問題点の解明	1
授業研究の実施	27	語学研修・体験活動	1
教育事務所・教育省への提案	1	メディアでの啓蒙活動	1
授業参観・家庭訪問・保護者会活動	1		

※海外において、複数の教育活動に携わった回答者もいるため、表中の人数は延べ人数である。

●多くの回答者が、現地での教科教育における授業実践を自ら行ったり、現地教員の授業改善に関わったりした経験がある。

5-1. 海外での教育活動を行った当時の社会的立場について、当てはまるものを選んでください（複数選択可）。なお、「その他」の場合は、どのような立場であったかを記述してください。

【選択肢】大学卒業後に就職を経ずに活動に参加，大学院1回生，大学院2回生，大学院3回生以上，現職教員1年目～5年目，現職教員6年目～10年目，現職教員11年目～15年目，現職教員16年目～20年目，現職教員21年目～25年目，現職教員26年目～30年目，現職教員31年目以上，現職教員退職後，高校や大学卒業後に社会人を経て活動に参加，その他

表8 当時の社会的立場

社会的立場	人数	社会的立場	人数
現職教員1年目～5年目	10	研究職退職後小学校勤務1年を経て活動に参加	1
現職教員6年目～10年目	14	大学生	1
現職教員11年目～15年目	3	大学院1回生	1
現職教員16年目～20年目	1	大学院2回生	3
現職教員21年目～25年目	3	大学院3回生	2
現職教員26年目～30年目	0	高校や大学を卒業後，社会人を経て活動に参加 (非常勤講師経験を含む)	13
現職教員31年目～	1	大学卒業後に，就職を経ずに活動に参加	7
現職教員退職後	6	就職せずに活動に参加した後，教員経験を積み，また海外の教育活動に参加	1

※複数回に渡り，海外での教育活動を行なった回答者もいるため，表中の人数は延べ人数である

- 現職教員の場合，1年目から10年目までの若手教員の割合が高い。
- 現職教員でない場合，高校や大学を卒業後，社会人を経て活動に参加した参加者の割合が高い。

5-2. 海外での教育活動を行った当時、現職教員であった方は、当時の校種や教科を選択してください。なお、「その他」の場合は、どのような立場であったかを記述してください。現職教員でなかった方は、「現職教員ではなかった」を選択してください。

【選択肢】現職教員ではなかった、幼稚園・保育園、小学校、中学校(数学/理科/社会/英語/保健体育/美術/音楽/技術/家庭)、高等学校(数学/理科/地理歴史/公民/英語/保健体育/美術/音楽/技術/家庭)、各種特別支援学校、その他

表9 在職時の担当校種・教科

校種・教科	人数	校種・教科	人数
小学校	13	高等学校/理科	1
中学校/数学	1	高等学校/地理歴史	1
中学校/理科	2	高等学校/公民	1
中学校/英語	1	高等学校/保健体育	1
中学校/保健体育	1	高等学校/家庭	1
中学校・高等学校/数学(一貫校)	1	高等専門学校/専門	1
中学校・高等学校/理科(一貫校)	1	各種特別支援学校	2
		校長	1

- 現職教員の約半数が、すべての教科を指導する小学校教員である。
- 約半数が特定の教科の専門性を有する中学校・高等学校の教員であるが、教科別に見ると、特定の教科への偏りはみられない。

(2) 教科指導の資質・能力に関するアンケート結果

海外での教育活動を通して、①教科指導に関する資質・能力の向上を、当初どの程度期待していたかについて、最も当てはまるものを選択してください。また、②教科指導に関する資質・能力が、実際の程度向上したかについて、最も当てはまるものを選択してください。

6-0-1. 下記の25の教科指導に関する資質・能力

①向上を当初期待していた

全く当てはまらない/少し当てはまる/ある程度当てはまる/かなり当てはまる/非常に当てはまる

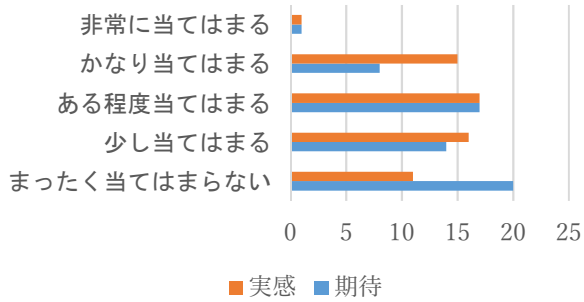
②実際に向上した

全く当てはまらない/少し当てはまる/ある程度当てはまる/かなり当てはまる/非常に当てはまる

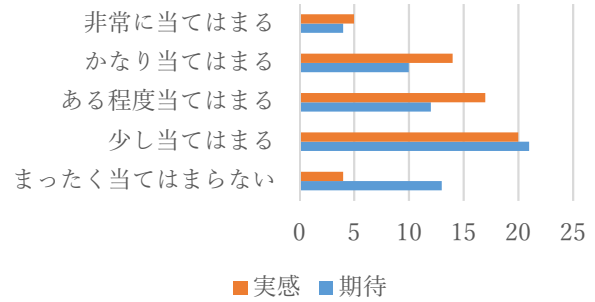
6-0-2. ②について、そのように判断した具体的な事例やエピソードがあれば、記述してください。

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|
| 6-1. 指導内容の系統性について読み取る力 | 6-16. 子どもの思考を活性化させるワークシートを作成する力 |
| 6-2. 指導内容の本質に関わる知識・技能 | 6-17. 学習到達度を適切に評価できる問題を作成する力 |
| 6-3. 指導内容と日常生活との関連を捉える力 | 6-18. 子どもの理解度に応じて、臨機応変に授業を展開する力 |
| 6-4. 子どもの認識の仕方に関する知識 | 6-19. 子どものつまずきを発見する力 |
| 6-5. 目標の妥当性を判断する力 | 6-20. 子どものつまずきの原因に対応した指導をする力 |
| 6-6. 適切な目標を設定する力 | 6-21. 複数の教師で協力して指導に当たる力 |
| 6-7. 教材に備わっている特性について読み取る力 | 6-22. 自分の考えた過程がわかるノート作りを支援する力 |
| 6-8. 新たな教材を開発する力 | 6-23. 目標達成のポイントとなる教師や子どもの発言・行為に気づく力 |
| 6-9. 教具に備わっている特性について読み取る力 | 6-24. 教師や子どもの発言・行為の意図を読み取る力 |
| 6-10. 新たな教具を開発する力 | 6-25. 授業の目標達成の程度を適切に判断する力 |
| 6-11. 子どもの思考の仕方に基づき、子どもの反応を予想する力 | |
| 6-12. 授業展開を構想する力 | |
| 6-13. ペア活動・グループ活動等の学習の場を設計する力 | |
| 6-14. 発問計画を立てる力 | |
| 6-15. 板書計画を立てる力 | |

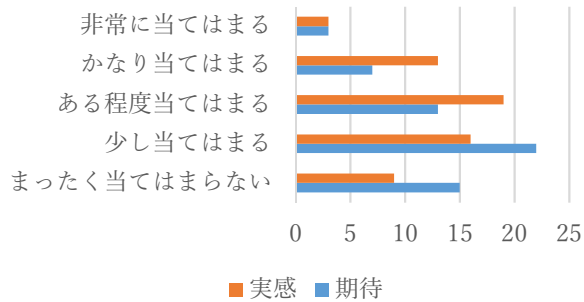
6-1. 指導内容の系統性について読み取る力



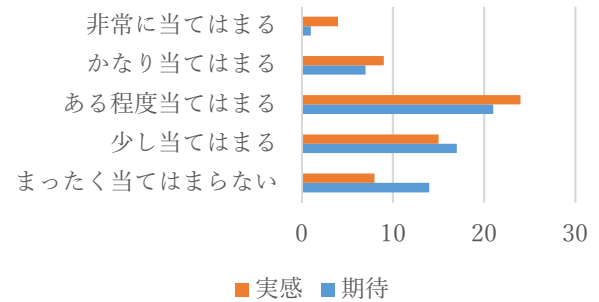
6-2. 指導内容の本質に関わる知識・技能



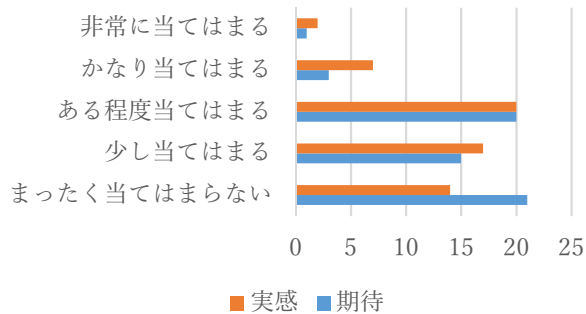
6-3. 指導内容と日常生活との関連を捉える力



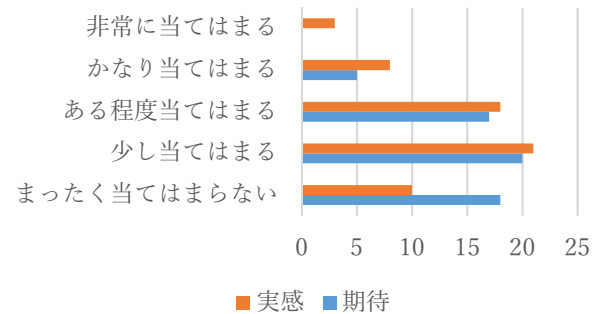
6-4. 子どもの認識の仕方に関する知識



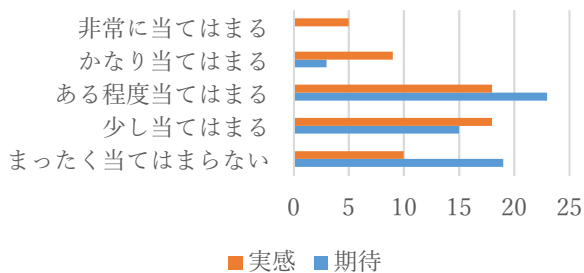
6-5. 目標の妥当性を判断する力



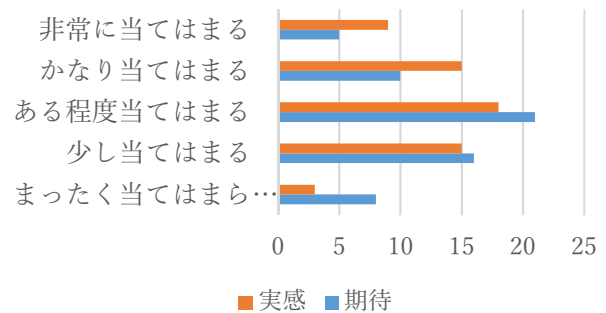
6-6. 適切な目標を設定する力



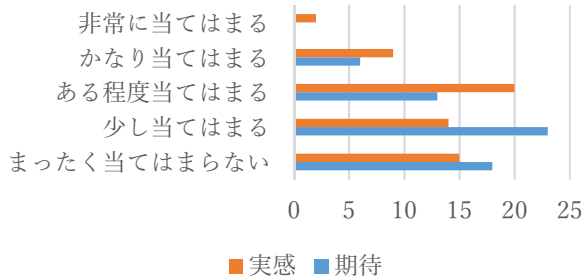
6-7. 教材に備わっている特性について読み取る力



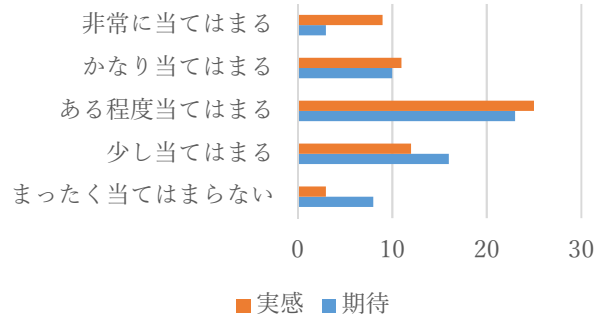
6-8. 新たな教材を開発する力



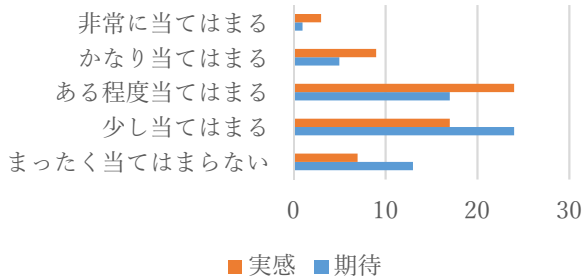
6-9. 教具に備わっている特性について読み取る力



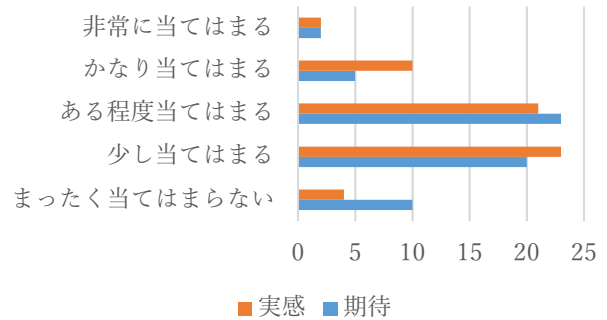
6-10. 新たな教具を開発する力



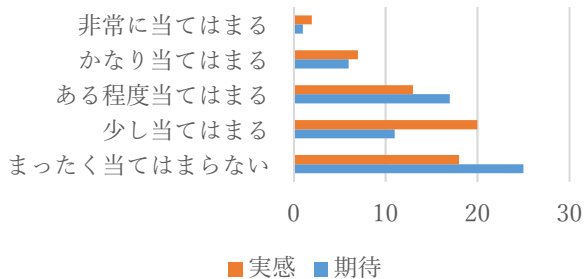
6-11. 子どもの思考の仕方に基づき、子どもの反応を予想する力



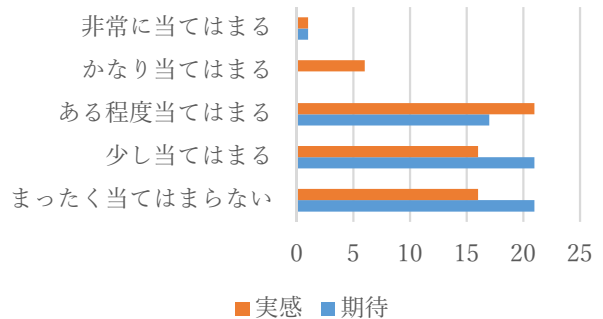
6-12. 授業展開を構想する力



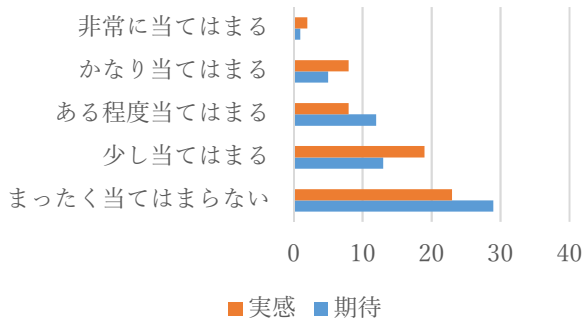
6-13. ペア活動・グループ活動等の学習の場を設計する力



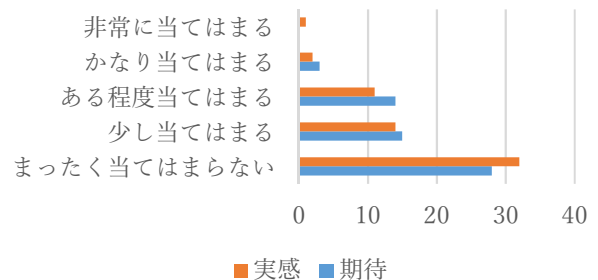
6-14. 発問計画を立てる力



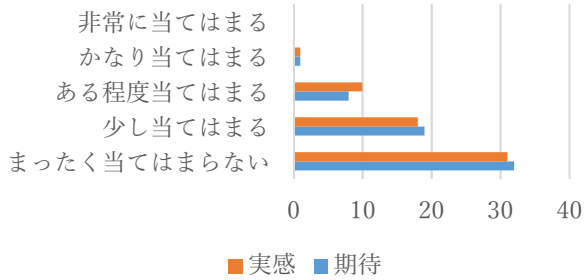
6-15. 板書計画を立てる力



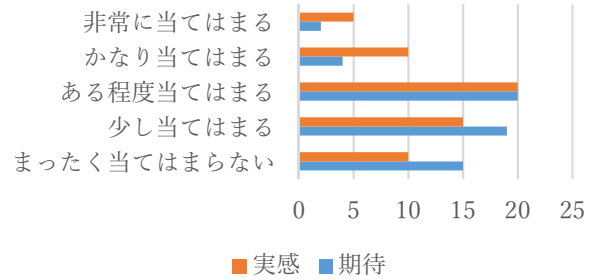
6-16. 子どもの思考を活性化させるワークシートを作成する力



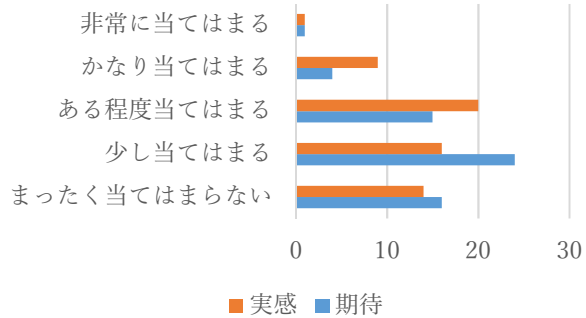
6-17. 学習到達度を適切に評価できる問題を作成する力



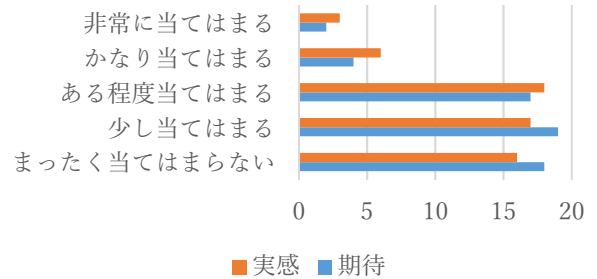
6-18. 子どもの理解度に応じて、臨機応変に授業を展開する力



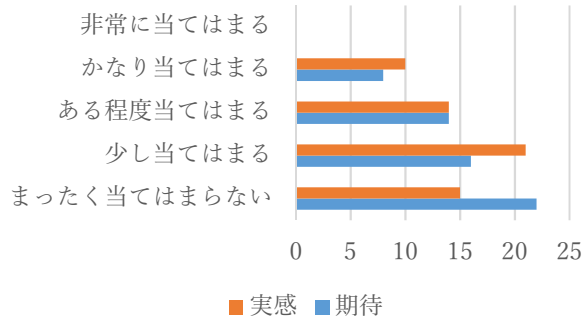
6-19. 子どものつまずきを発見する力



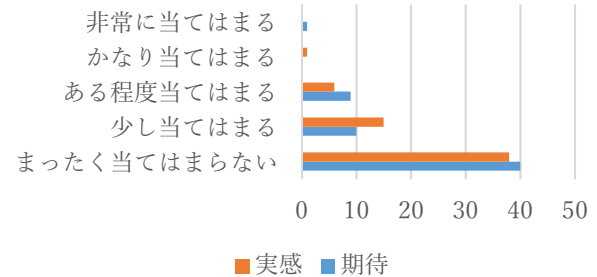
6-20. 子どものつまずきの原因に対応した指導をする力



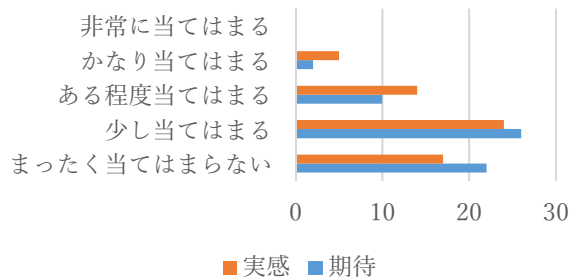
6-21. 複数の教師で協力して指導に当たる力



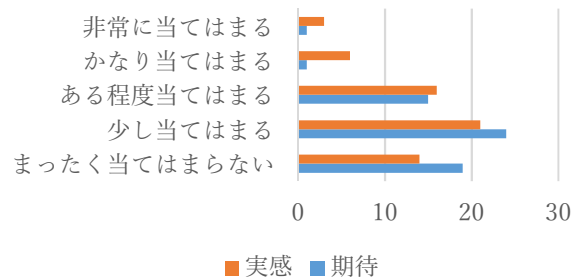
6-22. 自分の考えた過程がわかるノート作りを支援する力

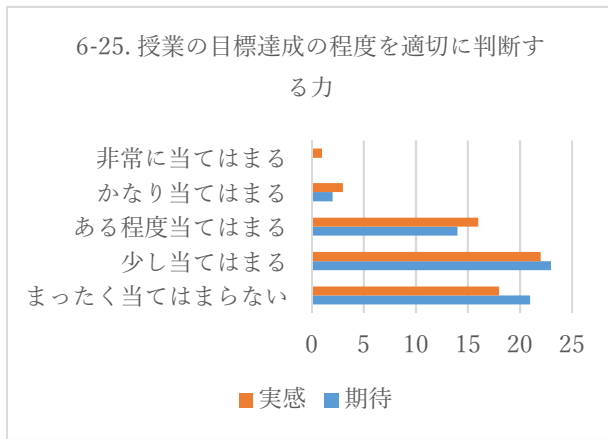


6-23. 目標達成のポイントとなる教師や子どもの発言・行為に気づく力



6-24. 教師や子どもの発言・行為の意図を読み取る力





●以下の質問項目に関する資質・能力は、向上をあまり期待されていなかったが、海外での教育経験を通じて向上が実感された項目である。

- 【6-3. 指導内容と日常生活との関連を捉える力】
- 【6-6. 適切な目標を設定する力】
- 【6-7. 教材に備わっている特性について読み取る力】
- 【6-11. 子どもの思考の仕方にに基づき、子どもの反応を予想する力】
- 【6-18. 子どもの理解度に応じて、臨機応変に授業を展開する力】

●以下の質問項目に関する資質・能力は、ある程度向上を期待しており、海外での教育経験を通じて、向上が実感された項目である。

- 【6-2. 指導内容の本質に関わる知識・技能】
- 【6-8. 新たな教材を開発する力】
- 【6-10. 新たな教具を開発する力】

●以下の質問項目に関する資質・能力は、向上を期待しておらず、海外での教育経験を通じて、あまり向上が実感されなかった項目である。

- 【6-16. 子どもの思考を活性化させるワークシートを作成する力】
- 【6-17. 学習到達度を適切に評価できる問題を作成する力】
- 【6-22. 自分の考えた過程がわかるノート作りを支援する力】

7. 総合的に見て、グローバルな教育経験が、教科指導の資質・能力の向上に効果があったかについて、最も当てはまるものを選択してください。

○効果があった

全く当てはまらない/少し当てはまる/ある程度当てはまる/かなり当てはまる/非常に当てはまる

